



大杉谷国有林からの手紙



37通目 ～大台ヶ原地域の自然再生～

大台ヶ原は、奈良県上北山村と三重県大台町の県境に位置し、三重県の最高峰である日出ヶ岳、三津河落山や経ヶ峰など、標高1300mから1700mの複数の山々に囲まれた台地です。

吉野熊野国立公園に指定され環境省が遊歩道等を整備していることから、三重県側の大杉谷国有林の一部が含まれていることに気づく方は少ないのではないのでしょうか。

大台ヶ原は「コケむす森」と言われ、トウヒやウラジロモミなどの亜高山帯針葉樹がまとまって分布しており、西日本では希少かつ貴重な地域とされてきました。

しかしながら、昭和30年代に相次いで発生した大型台風の影響により正木ヶ原周辺では、大規模な風倒木被害が起り、ミヤコザサ（以下「ササ」という。）の分布拡大が進みニホンシカ（以下「シカ」という。）の餌資源量が増加して個体数が急激に増加しました。その結果シカが、森林内の下層植生を食べること、新たに芽生えた樹木の幼樹の枝葉を食べることや樹木の幹の皮剥ぎなどの被害が起きています。

このような状況に対処するため、大台ヶ原の奈良県側では環境省が、三重県側の大杉谷国有林では林野庁がこれまで自然再生やシカの捕獲等を行ってきました。

今回は、その取組のうち自生稚樹保護のための防鹿柵の設置について紹介します。

（1）自生稚樹保護用防鹿柵の設置

大規模な風倒木被害を受けた正木ヶ原から正木峠周辺は、一見、立ち枯れ木とササだけしかないように見えますが、ササ原の中をよく探すとトウヒの自生稚樹



正木ヶ原周辺のササ原



雨の中の正木ヶ原

(以下「稚樹」という。)が生息しています。しかし、これらの稚樹は、頂芽や樹皮をシカが食べることにより成長が抑えられひどい場合には枯れてしまいます。

そのため、稚樹を保護するために防鹿柵を設置しています。防鹿柵は小区画(3m×3m×2m(高さ))に防鹿柵を張るパッチディフェンスとし、平成20年度から27年度までに300箇所程度設置しています。

トウヒ等針葉樹の稚樹は順調に成長し、今では2mを超える個体も見られます。



自生稚樹防護用防鹿柵

(2) ササ原での防鹿柵設置の問題点と坪刈り

一方ではササが生育している場所における防鹿柵の設置は、シカによる食害から稚樹を保護すると同時にササも食べられなくなるため、柵内のササは繁茂してしまいます。ササよりも背丈の低い稚樹は、ササに覆われるため成長しなくなり、いずれ枯れてしまいます。そのため、ササよりも低い稚樹の育成を図るためには、稚樹の周りのササを刈り取る「坪刈り」が必要となります。



この坪刈り作業は、毎年ボランティア活動として実施者を募集して実施しています。

ボランティア活動については、本手紙22通目をご覧ください。

森林等の自然が再生されるまでには何百年という年月がかかりますが、このような地道な活動を継続していく必要があります。



発行:三重森林管理署 尾鷲森林事務所 地域統括森林官